

審査の結果の要旨

熊谷たまき

本研究は中年期にある血液透析患者とその配偶者を対象として、抑うつ の出現率を把握し、患者の疾患・治療関連要因と生活上の支障が抑うつ状態へ及ぼす影響と、患者と配偶者の相互への影響の有無を明らかにするためにストレスプロセスモデルを用いて検討を行ったものである。また透析患者と配偶者の抑うつ状態に自尊感情、社会的支援の心理社会的資源が及ぼす効果を、直接効果と緩衝効果について明らかにしようとしたものであり、以下の結果を得ている。

1. 透析患者と配偶者における抑うつ状態にあるものの割合は、患者においては一般集団よりも高率であり、配偶者においても患者ほどではないが高くなっていた。
2. 透析患者と配偶者において、透析患者の身体機能状態の低下は、透析患者と配偶者の生活上の支障を高め、生活上の支障が高いことが抑うつ状態を増悪させる。患者の身体機能状態は、患者および配偶者の両者に対して、直接的に抑うつ状態に影響するのではなく、生活上の支障を介して抑うつ状態に影響する。
3. 患者と配偶者の二者における相互の影響については、透析患者の生活支障は配偶者の精神健康には影響を与えないが、配偶者の生活上の支障は透析患者の精神健康を低下させることが明らかになった。
4. 透析患者がもつ自尊感情は生活上の支障と抑うつ状態に関連し、また透析年数が短いもので生活上の支障の抑うつへの影響を緩和する。配偶者では自尊感情は生活上の支障と抑うつを軽減する効果をもつ。

5. 患者において、情動的支援を多く受けていることは、身体的機能レベルの生活上の支障に及ぼす影響を緩和し、さらに生活上の支障が抑うつへ及ぼす影響を緩衝し抑うつ状態の増悪を防ぐ。配偶者では、情動的支援を多く受けていることが生活上の支障を軽減させ、そして生活上の支障が精神健康を低下させることを防ぐ間接効果をもつ。また配偶者の抑うつ状態は情緒的支援によって軽減される。

以上、本論文は中年期にある血液透析患者とその配偶者を対象とし、これまでにほとんど検討されてこなかった透析患者の配偶者の抑うつ状態の出現率を把握し、患者と配偶者における抑うつ状態への関連要因と二者間における相互作用を詳細に分析した。また抑うつ状態を緩和する心理社会的資源の効果を明らかにしたもので、血液透析患者の配偶者への支援体制のあり方に有用な示唆を与えると考え、学位の授与に値するものと考えられる。